

# かごしまの教育21



県庁2階入口へ続く道に咲くブーゲンビリアー紫色の花びらに見える部分は包葉と言われる葉の一部、本当の花は中央の白い部分

## (10月号)contents (目次)

2010年 OCT

| コーナー      |                | 頁 | 掲 載 事 項                                                                                                                                                                 | 執筆者・担当課                    |
|-----------|----------------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 随想        |                | 1 | 子どもたちに本物を                                                                                                                                                               | 空想科学研究所<br>主任研究員<br>柳田 理科雄 |
| 特集        |                | 2 | 第10回<br>九州地区九州地区健康教育研究大会                                                                                                                                                | 保健体育課                      |
| かごしま教育NOW |                | 4 | 子どもの読書活動の推進<br>—2010年は国民読書年—                                                                                                                                            | 社会教育課                      |
|           |                | 5 | 「親子20分読書運動」50周年の今<br>～その原点と現在の取組～                                                                                                                                       | 県立図書館                      |
| シリ<br>ーズ  | 私の教育実践         | 6 | 子どもが考える授業を創る                                                                                                                                                            | 指宿市立柳田小学校<br>教諭 上鶴 涼子      |
|           | 人権同和教育情報       | 7 | いじめ問題の解決と進路保障                                                                                                                                                           | 高校教育課                      |
|           | 教職員<br>&校長の声   | 7 | 「東中ブランド」の確立をめざして                                                                                                                                                        | 鹿屋市立鹿屋東中学校<br>校長 小篠 元生     |
|           | 本年度の重<br>点課題情報 | 8 | 平成22年度<br>「全国学力・学習状況調査」の結果<br>「県立高校学力向上推進プロジェクト」事<br>業の成果                                                                                                               | 義務教育課<br>高校教育課             |
| 情報の部屋     |                | 9 | ○今月の「おすすめの本」コーナー<br>県立図書館<br>○今月の「お知らせ」<br>県立図書館、かごしま県民大学中央センター<br>県立南薩少年自然の家、県立埋蔵文化財セン<br>ター、県立奄美少年自然の家、県立奄美図書<br>館、霧島自然ふれあいセンター、県立青少年研<br>修センター、上野原縄文の森、県教育庁総務<br>福利課 | 各教育機関等                     |

※ それぞれのページに出てくるアドレスや学校名に指印がでてきたら、クリックしてください。関係ホームページへジャンプできます。

# 随 想 子どもたちに本物を



空想科学研究所  
主任研究員 柳田 理科雄

僕は、種子島の出身です。61年6月の生まれで、2か月前にガガーリンが人類初の宇宙旅行を成し遂げましたが、これに父が「科学は素晴らしい」と感動し、僕に「理科雄」と名づけました。

僕は幼いころから「宇宙の果てはどうなっているのか」「地球の裏側まで穴を掘ったらどうなるか」などといったことを考えるのが好きでした。これは名前よりも、種子島で生まれ育ったことが大きく影響していると思います。僕が子どものころ、周囲には、テレビで見る「都会的なもの」が何一つありませんでした。鉄道がない、エスカレーターがない、信号機がない。小学校高学年のとき、浅田美代子の『赤い風船』という歌が流行しましたが、ヘリウム入りの

空に浮かぶ風船は、種子島のどこにもなかったのです。

実物がないので、想像するしかありませんでした。急行列車は普通列車をどうやって追い越すのか、エスカレータの降り口で消えた階段はどこへ行くのか、浅田美代子の風船はなぜ浮かぶのか。こういう疑問について、子ども用の図鑑で調べたりするうちに、新しい疑問が湧いてきて、好奇心がますます膨らんでいったように思います。

そう考えると、今の都会の子どもたちについて、考えたくなることがあります。

たとえば、実験ショーで、これからやる実験を説明すると、子どもたちからこんな声が上がることがあります。「知ってる、知ってる」。おそらく、テレビ番組や科学館で、似たような実験を見たことがあるのでしょう。そんなとき、僕は「まあ、やってごらん」といって、その子どもたちを促します。すると、ほぼ例外なく、目を輝かせて熱中するのです。その子どもたちは、実験の存在を知っているだけで、そこで味わう驚きや感動まで知っているわけではないのです。驚きや感動は、自分

で経験してみなければわかりませんから、当然の反応だと思います。

経験する前に、見たたり聞いたたりしただけで、知っているつもりになっってしまう。情報があふれていることが、かえって対象への興味を失わせているわけです。乾電池や豆電球に触らせる前に「電圧」「電流」「抵抗」を教えようとすると、子どもたちが興味を持ってくれないのと似ています。だから僕は「知ってる」という子どもたちにこそ、現物を見せ、現物に触らせたいと考えています。

鹿児島県には、離島がたくさんあります。本土にも、鹿児島市内まで何時間もかかる地域があります。その市内でさえ、東京などに比べれば、はるかに情報は足りません。実物を見てみたい、現物に触れてみたいと思っている子どもたちは、たくさんいると思います。こうした子どもたちに本物を見せてあげたとき、何を感じ、何を発想してくれるか、楽しみでたまりません。

そういう意味で、鹿児島には、新しいものを作り出す力、未来を切り開くエネルギーが潜在的にあふれていると思います。

# 特集

## 『第10回九州地区健康教育研究大会』 開催

保健体育課



八月九日(月)～十日(火)の二日間、九州各県健康教育関係者1、200余名の参加を得て、第10回九州地区健康教育研究大会が鹿児島市において開催されました。以下、大会の様子を紹介いたします。

開会式に引き続き、シンポジウムが、テーマ「生涯にわたって、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」、サブテーマ「学校における家庭・地域社会及び関係機関との連携の在り方について考える」と題し、行われました。健康教育に関わる様々な分野のスペシャリストがシンポジウムとして登壇しました。鹿児島県医師会 池田・哉会長は、「地域で医師が貢献できる学校健康教育を目指して」。

### ◇ 大会の内容 ◇

#### 1 趣 旨

九州各県の健康教育に携わる関係者が一堂に会し、学校・家庭・地域社会及び関係団体との連携によるこれからの学校保健・学校安全・学校給食の在り方やその諸問題について研究協議を行い、もって生涯にわたって健康で安全な生活を自ら実践する幼児・児童・生徒の育成に資する。

#### 2 主 題

「生涯にわたって、心豊かにたくましく生きる力をはぐくむ健康教育の推進」

#### 3 主 催

九州各県教育委員会 財団法人日本学校保健会 九州地区学校保健会 九州各県学校給食会 九州地区養護教諭研究会 九州地区栄養教諭・学校栄養職員協議会 鹿児島市教育委員会 鹿児島市学校保健会

#### 4 主 管

第10回九州地区健康教育研究大会鹿児島県実行委員会

#### 5 会 場

宝山ホール かごしま県民交流センター 県歴史資料センター 黎明館 かごしま市民福祉プラザ

#### 6 参加者

学校医 学校歯科医 学校薬剤師 学校長(園長) 養護教諭 栄養教諭 学校栄養職員 その他の教職員 行政関係者 P T A関係者 保育園・幼稚園関係者 等

#### 7 主な大会内容

- (1) 全体会
  - ア 開会式
  - イ シンポジウム
  - ウ 特別講演
- (2) 分科会





指宿市立南指宿中学校の米永瞳養護



教諭は、「健康で心豊かな生活を実践できる生徒の育成、生徒一人一人の心の健康づくり」。食育シニアアドバイザーの外山澄子さんは、「健康教育の観点に立った食育、地場産物を活用して心と体の育みを」。鹿児島県PTA連合会の岩佐睦美副会長は、「学校と家庭の連携による子どもの健康づくり、『食育』の取組をととして」。鹿児島総合警備保障株式会社の荒武貞夫常務取締役は、「未来を担う子どもたちの安全・安心のために、子どもたちを守るために学校、家庭、地域社会及び関係機関がすべきこと」と題してこれまでの実践や取組を紹介したり、客席と意見交換などを行いました。

最後にコーディネーターを務めた県立奄美少年自然の家の鈴木俊二所長が「各分野での地道な活動が、やがて点から線になりお互いの連携につながり、健康教育の推



い

進につながるとまとめ、有意義な時間となりました。

**特別講演では**、国立大学法人鹿児島大学大学の福永哲夫学長に、『自宅で行えるホーム貯筋術』と題し、講演を頂きました。学長は、東京大学、早稲田大学で勤務され、平成20年から現職を務められ、バイオメカニズム、スポーツ生理学の第一人者として幅広く御活躍されています。

特別講演の演題「貯筋術」は、「中高年で運動不足の人に対して、筋肉を鍛える事で健康を保つという取組で、具体的には毎日十五分程度の運動を継続して行い、ふだん使っていない部分の筋肉を鍛え、老後に備えることが大切である。また、運動を始めるにあたっては、

- ①運動前のストレッチ体操を行う。
- ②少しきついなどという強度を選ぶ。
- ③どの筋肉を動かしているのか意識する。
- ④出来るようになったらレベルを上げる。

ことなどを意識することが大切である」と説明され



れました。プレゼンテーションを使った加者と一緒に体を動かすなど、時間が経つのを忘れる

くらしいの貴重な講演となりました。**分科会**は、九つに分かれ、喫緊の健康教育の課題に対して、その現状や解決策について



発表が3名ずつ行われた。また、会場からの意見やあらかじめ設定し

た協議議題に沿って協議が行われ、最後に指導助言者から、発表事例への

|   | 課 題                    | 発 表 県     |
|---|------------------------|-----------|
| 1 | 学校経営と組織活動（保健室管理、保健室経営） | 福岡、鹿児島、熊本 |
| 2 | 保健学習・保健指導              | 鹿児島、大分、沖縄 |
| 3 | 健康教育（健康相談、児童生徒の活動への支援） | 長崎、宮崎、福岡  |
| 4 | 性教育（エイズ等教育を含む）         | 佐賀、福岡、鹿児島 |
| 5 | 食に関する指導                | 沖縄、鹿児島、長崎 |
| 6 | 歯・口の健康づくり              | 鹿児島、沖縄、大分 |
| 7 | 学校環境衛生・学校給食における衛生管理    | 熊本、佐賀、鹿児島 |
| 8 | 安全管理・安全教育              | 大分、熊本、宮崎  |
| 9 | 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育         | 宮崎、長崎、佐賀  |

感想や課題に対する提言がなされました。最新の情報収集や、より専門性を高めようと真剣なまなざしで聴衆する参加者の顔がたいへん印象



的でした。

**県外から参加**された方々に鹿児島県の食文化を味わってもらおうと、昼食の弁当にもこだわりました。

県学校栄養士協議会（榊順子会長 会員190名）が中心になり、「かごしまをまるごと味わうおべんと」と銘打って、地場産物を100%使用した、郷土料理を召し上がったもらいました。事前に三回程集まり、メニュー設定や弁当業者等と打合せを行いました。県外参加者に感想を聞いてみると、「見た目、味ともに抜群でした。」「また、食べた。」と大好評でした。また養護教諭や栄養教諭の団体が作成し

た、活動の紹介を紙上で行うなど、特色ある大会になりました。





## 子どもの読書活動の推進

2010年は国民読書年

社会教育課

一 今年は「国民読書年」

## (二) 国民読書年の意義・趣旨

平成20年6月国会において、今年を「国民読書年」とすることが決議されました。

この決議では、読書の街づくりの広がりや様々な読書に関する市民活動の活性化など、読書への国民の意識を高めるため、政官民が協力し、国をあげてあらゆる努力を重ねることが宣言されています。

### 三 県内の取組状況

県教委が7月に実施しました「国民読書年」に係る取組の調査では、36市町村で、お薦め本のコーナーの設置、子どもサミットや司書等による読書活動推進懇談会の開催等、各々特色ある取組を行っています。また、5市町村が今後取組を実施することとしています。

効果として、**61%**、**26市町村**で、「住民の読書への意識が高まった」と回答しており、読書活動の気運の醸成につながっていると思われる。

二 お薦めの本について

県立図書館では、「国民読書年」及び「親子20分読書運動50周年」の今年、リーフレット「鹿児島の高校生が薦める本」を作成しました。

このリーフレットは、読書離れ・活字離れが顕著になっていく高校生に焦点をあて、県内の高校生が高校



【モデルリスト表紙】

また、昭和50年から、幼児、小学生、中学生、指導者向けには、「こどもの本」『児童図書モデルリスト』を毎年作成しています。子どもの本を選択する際の参考資料として、ご利用ください。



【リーフレット表紙】

生等にお薦めの本を紹介したユニークなものです。本の詳しい情報や表紙、高校生によるお薦めのポイントを掲載しています。

「鹿児島の高校生が薦める本」

推薦冊数

◇高校生向け……………50冊

◇中学生向け……

◇小学生向け………5冊

三 おわりに

子どもは読書習慣をはぐむためには、読書に対する興味や関心を引き出すための働きかけを行い、子どもが発達段階に応じて本と巡り会い、読書の楽しさを知る機会を作ったり、手立てを講じたりすることが大切です。

とりわけ、学校では、発達段階を踏まえた指導のねらいを明確にし、指導内容を位置付けることが重要です。

## 【問い合わせ先】

電話 099・286・5336

なお、リーフレット及びモデルリストは、県立図書館ホームページ「子どもの読書に関する情報」でダウンロードできます。

## 「こどもの本」『児童図書モデルリスト』推薦冊数

◆幼児向け……………20冊

◆小学校低学年向け： 20冊

◆小学校中学年生向け： 15冊

◆小学校高学年向け： 15冊

◆中学生向け……………15冊

◆指導者向け……………3冊

なお、リーフレット及びモデルレ

ストは、県立図書館ホームページ

読書の情報」でダウ

ロードできます。

県立図書館「子どもの読書に関する情報」

<http://www.pref.kagoshima.jp/kentoshoh/komono/index.html>



椋 鳩 十 氏

## 「親子20分読書運動」50周年の今年

## ～ その原点と現在の取組 ～

県立図書館

一 親子読書運動が目指したこと

今年は、「国民読書年」であると同時に、本県における「親子読書運動」が50周年を迎えている年です。この運動は、当時県立図書館長であった棕鳩十氏が昭和34年に「母と子の20分間読書」として試行し、それを受けて、昭和35年から県が「親子20分読書運動」として本格的に推進しました。この運動のねらいを3点挙げてみたいと思います。

○知らず知らず、鑑賞の世界を鋭く、深くしていく。

○深い喜びやきめ細かく美しい情緒、感動と思考を育てる。

○家族全員の心と心に、互いに理解の橋をかけ合う。

親と子の、あるいは子ども同士のあたたかな交流を通して、豊かな読書の世界を子どもたちの中に広げていく運動であったといえます。

## 二 現在の取組

このような「親子20分読書運動」の原点やこれまでの歴史を踏まえつつ、県立図書館では、様々な取組を進めています。

## ◇親子読書研修会

6月23日、かごしま県民交流センターで「親子読書研修会」が行われました。例年は午後6時の半日開催でしたが、「親子20分読書運動50周年」と「国民読書年」を記念し、午前中

からの拡大日程で開催しました。「母と子の20分間読書記録映画」の視聴に始まり、さつま町立流水小学校と県立図書館ボランティアグループ「さざなみ」による事例報告、親子読書の充実をテーマにしたパネルディスカッション、児童文学者・齋藤惇夫氏による講演と充実した内容となりました。参加者にとっても「親子読書」の原点を見つめ、今後の取組を考える貴重な時間となりました。

## ◇読書と感動を広げる研修会

この研修会は、本年度から三か年事業として行われます。これまでの各地域における取組をふり返るとともに、その価値を再認識し、今後の読書推進活動を更に充実させていくことを目指し、県下6地区(鹿児島・南薩・北薩・姶良伊佐・大隅・熊毛)で順次開催します。各地区で開催することにより、読書推進活動の輪が全県下に更に広がっていくこともねらっています。本年度は大隅地区と北薩地区で行われます。多くの方々の参加を期待しています。

【大隅地区】

会場・鹿屋市中央公民館

日時・平成22年11月25日（木）

13時  
～  
16時  
15分

【北薩地区】※会場と期日は予定

会場・出水市音楽ホール

期日・平成23年2月6日（日）

◆特別企画展示

「親子20分読書運動50周年展  
 ～ 椋鳩十の生涯と重ねて～」  
 場所・かごしま県民交流センタ―  
 期間・11月12日～12月2日

この機会に、親子20分読書運動の歴史や、椋鳩十氏の生涯にふれてみてください。

### 三 今後に向けて

県内の市町村立図書館でも、蔵書や館内設営の充実、おはなし会や研修会の実施、ボランティアグループとの連携等、様々な活動に積極的に取り組んでいます。今後も県立図書館と市町村立図書館が連携するとともに、学校や家庭・地域にも働きかけながら、親子読書をはじめとした読書活動の充実に努めていきます。



親子読書研修会におけるパネルディスカッションの様子

〔問い合せ先〕

○県立図書館奉仕課企画指導係  
電話 099(224)9514



## 私の実践紹介◆◆◆◆◆



# 「子どもが考える 授業を創る」

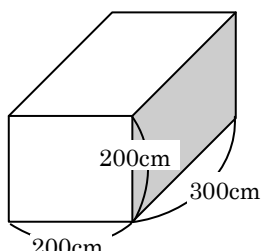
指宿市立柳田小学校 教諭 上鶴 涼子

指宿市立柳田小学校は指宿市の中心地近くに位置し、児童数約400名の中規模校です。訪問したときは掃除時間でしたが、子供たちの元気なあいさつが印象的でした。

この学校で少人数指導を担当しており、教務主任としても活躍している上鶴教諭に、「子どもが考える授業づくり」についてうかがいました。

「子どもが考える授業づくり」に向けて大切にしていることは――

その1 必要感をもたせる



今日の授業は、教科書の導入とは少し変えて、まず既習の「小さな単位を使って体積を計算」させました。このことで子どもは、数が大

きくて「分かりにくい」「計算しにくい」という不便さを感じ、大きな単位を使うことのよさに気づき、学習への意欲が高まります。

その2 自分と友達の考えを色分けする

ノートをとるときに、まず自分の考えを書くように指導しています。そのためには、子どもにいろいろ考えるヒントを与えることや具体的な操作・体験が大切です。今日の授業では1立方



メートルの中に入り大きさを実感させました。

また、友達の考えは青色で

書かせるようにしています。色を違わせることで、同じ部分・違う部分はどこか、どう考えればよかったのかといったつまずきやその理由を視覚的にとらえられます。自宅学習の際には、この点にポイントをおいて学習するように指導しています。

その3 練習問題は三段階につくる

ほとんどの場合、学習の終末に練習問題を用意しますが、問題は三段階に分けています。最初、基本的な問題で自信をつけさせ、最後は応用問題にチャレンジさせるためです。こうすることとでどの子どもも達成感を味わうとともに、暇をもてあますことなく、最後まで積極的に学習に取り組みます。

その4 机間指導による評価

学習問題づくりや練習問題に子どもが取り組む際は、必ず机間指導をするように心がけています。机間指導と言っても多くの場合は丸つけになるのですが、これだけのことで子どもはノートをきちんと書くようになったり、次の問題に意欲的に取り組むよう



になったりします。簡単なことの積み重ねがとても大切なことだと感じます。

―その他気を付けていることは―

〇つまずきそうなところに先回り

今回の授業では、100立方センチメートルの積木を頻繁に使いました。私の経験上、単位換算で子どもがよく間違うのが1立方メートル⇨100万立方センチメートルです。そこで、単位換算が出てくる前から1立方センチメートルや100立方センチメートルの積木を使い、その大きさを実感的に身につけさせることが大切だと考えます。

過去の授業の失敗経験を次に生かすということにも心がけています。



教諭は授業について本当に楽しそうに話されます。国語が専門とお聞きしましたが、授業の工夫という点からは、教科の壁はないと感じました。

この工夫は、校務においても生かされており、細やかな打ち合わせをし、職員の意見を生かした確実な仕事で

されていると伺いました。  
上鶴教諭の今後の一層の活躍に期待いたします。

# 人権同和教育情報

## いじめ問題の解決と進路保障

### 高校教育課

一 いじめ問題の解決に向けて  
いじめ問題は、本県教育にとって現下の重要課題であり、解決に向けて、学校・家庭・地域が一体となつて取り組む必要があります。

学校では、「いじめは人間として絶対に許されない行為である。」という基本認識の下、いじめの早期発見・早期解決に努めています。いじめを発見したら、学校は被害を受けた生徒を守り通すことを最優先しなければなりません。学校と家庭が十分連携して、被害者を見守っていくことが必要です。

また、いじめの加害者についても、学校と家庭が連携し、根気強く指導していくことが必要です。なお、いじめが解決したと思っても、大人の気付かないところで、より陰湿化する場合があります。解決後も継続して注意を払っていく必要があります。

いじめの未然防止のためには、日ごろから生徒一人一人を大切に、命や人権を尊重する教育を実践していくことが大切です。

今後も、いじめ問題解決のため、

学校・家庭・地域の皆さまの御協力をお願いします。

### 二 進路保障

今年度も事業所等の採用選考試験が、9月16日から始まりました。県教委においては、毎年、知事部局、労働局と連名で、各事業主に対して、選考に当たって就職差別が起こらないように注意を喚起する依頼文書を送付しています。しかしながら、昨年度も問題事例が19件発生しております。

就職差別につながるおそれのある事例が発生した場合には、学校において、速やかに事実を確認の上、管轄公共職業安定所及び県教委へ報告を行います。その内容を受けて労働局及び職業安定所から当該事業所に是正を求めるよう指導しています。

今後も、事業主への依頼文書の趣旨の徹底を図り、就職差別の未然防止を図るとともに、問題事例が発生した場合は、学校からの通報、報告を迅速にして、就職差別の根絶に努めていきます。

## 学校づくりへの思い



### 「東中ブランド」の確立をめざして

鹿屋市立鹿屋東中学校

校長 小篠 元生

本校は生徒数804名の大規模校で創立24年目を迎えました。鹿屋市立鹿屋東中学校の代用附属中学校として毎年30余名の教育実習生を受け入れています。

さて、中教審会長の山崎正和先生の著書に「学校は子どもを社会から隔離する福祉施設ではなく、子どもに社会への出方を教える訓練施設である。」とあります。まさに中学校は社会への出口であり、「どこに出しても恥ずかしくない鹿屋東中生徒」を育て送り出すことが私どもの使命と考えています。

本校では、第一に生徒の規範意識を高めることに重点を置いていきます。身なりを整えることに取り組みるとともに、生徒会やPTAと一体となつて朝のふれあい活動を行つていきます。生徒会役員20名と教師十数名、保護者有志が毎朝、あいさつ運動を行い、元気な声が正門に響く光景は本校の伝統となつていきます。また、生徒会が「遅刻ゼロ運動」を展開し、時間を守る意識の醸成が図られています。次の重点事項は学習の習慣づくりです。大規模校では、授業の質を揃えるために授業の進め方や守

るべきルールの共通化が不可欠です。本校では「チャイム黙想」で授業の始まりを整え、教科毎の共通実践事項の徹底により望ましい学習の習慣づくりを進めています。

さらに、昨年度から連続5日間の職場体験学習を実施し、仕事の厳しさや社会に貢献する喜びを味わわせ、将来の生き方や学ぶことの意義を考えさせています。また、生徒の学習意欲の向上を図るとともに、本校の教育に地域の力を添えていただく重要な機会ととらえています。

今年度から本校は、「自己教育力の育成」を新たな研究テーマに掲げ、正しい判断や行動ができる生徒の育成を目指しています。教師は生徒にとって一番身近な大人であり、将来のモデルです。この考えから職員にはあらゆる場面です。生徒の手本となることを求めています。畢竟、「生徒に望む姿はまず教師が示すことだ。そして教師に望む姿はまず校長が示さなければならぬ。」と、自戒のこころを机上に置き、「東中ブランド」の確立を目指して毎日の校務に励んでいます。



# 学力向上対策情報

平成22年度

## 「全国学力・学習状況調査」の結果

義務教育課

### 一 調査結果

抽出調査への変更に伴い、全国及び県の平均正答率が、誤差も含めた数値の幅である「平均正答率の95%信頼区間」で示された。具体的データ（表1）について見ると、本県平均は、小学校国語A問題について、一方では、中学校国語A問題については、A問題・B問題ともに下回っている。また、この状況では、過去4年にわたり同様の状況であり、課題が引き続き継続している傾向は、一方、児童生徒の質問紙の結果で、本県において「基本的な回答を等」の多くの項目で肯定的な回答を

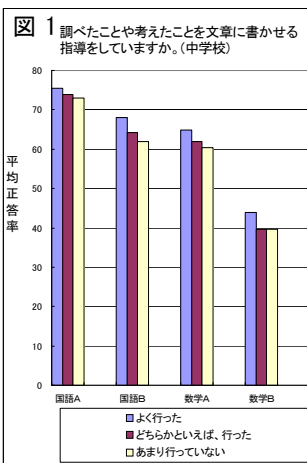
（表1）

小学校（A問題・B問題）正答率

| 教科  | 国語 | 平成22年度              |                     |
|-----|----|---------------------|---------------------|
|     |    | 本県平均正答率の95%信頼区間 (%) | 全国平均正答率の95%信頼区間 (%) |
| 小学校 | A  | 83.7~85.1           | 83.2~83.5           |
|     | B  | 76.8~78.8           | 77.7~78.0           |
|     | A  | 72.7~74.5           | 74.0~74.4           |
|     | B  | 45.9~47.9           | 49.1~49.5           |

中学校（A問題・B問題）正答率

| 教科  | 国語 | 平成22年度              |                     |
|-----|----|---------------------|---------------------|
|     |    | 本県平均正答率の95%信頼区間 (%) | 全国平均正答率の95%信頼区間 (%) |
| 中学校 | A  | 73.7~74.7           | 75.0~75.2           |
|     | B  | 63.6~65.1           | 65.1~65.5           |
|     | A  | 61.7~63.6           | 64.4~64.8           |
|     | B  | 39.9~41.7           | 43.1~43.5           |



した小・中学生の割合が高い。また、学校質問紙の結果からは、調べたことや考えたことを文章に書かせる指導をしている学校の方が多い傾向が示されている。（図1参照）

### 二 調査結果の活用

抽出校、希望利用校ともに、全教職員で調査の結果を分析し、自校の課題の明確化と共有化を図る。  
 □ 明確になった課題を解決する具体的な方策を立て、個々の児童生徒の学習指導に確実に還元する。  
 □ 自校の調査結果について、保護者等に対し具体的な説明を行う。  
 □ 本県独自教材「鹿児島チャレンジ」・「鹿児島ベータシク」の積極的な活用を図る。

## 「県立高校学力向上推進プロジェクト」事業の成果

高校教育課

### 一 目的

教員の教科指導や進路指導における指導力の向上を図るとともに、生徒の学ぶ意欲の向上に向けた取り組みを進め、進学や就職に対応できる学力を育成することを目的としています。

### 二 これまでの成果

（一）学力向上推進委員会による研修・研究

学力向上推進委員会を年5回開催し、大学入試問題等の研究やそれを踏まえた予想問題・授業教材の作成を行いました。そのなかで、問題分析力・問題作成力や教科指導力の向上を図りました。また、県外の先進校を研修視察し、進路指導・教科指導の情報を収集するとともに、ネットワークを形成しました。

（二）「夏トライ！グレート・アツプ・ゼミ」の実施

8月上旬に、300人以上の高校2年生が鹿児島中央高校で一堂に会し、進路講演会や5教科の授

業、鹿児島大学のオープンキャンパスにも参加しました。また、学力向上推進委員会等の授業を100名以上が参観し、教科指導法の改善や授業力の向上を図りました。生徒からは「通うのは大変だったが、今回学んだことを今後生かしたい」、「刺激を受け、大学受験へのモチベーションが上がった」などの感想が聞かれ、生徒の学習意欲の向上や進路意識の高揚を図ることができました。

### （三）地区小中高連携教科研究

各地区の推進校を中心に地区公開授業及び中学校への出前授業を実施するとともに、教科指導上の課題などについて、小中学校の教員と協議し、地区全体の学力を向上させるための取組を行いました。また、「中高橋渡し教材」の改訂や活用の促進を図りました。今後も、各教科の研修・研究を深めるとともに、各市町村教委や教育事務所と協力しながら、地域における連携を一層深め、本県高校生の学力向上のために、より実効性のある取組をしていきます。

子どもたちにお勧めの本を紹介し  
ます。 **鹿児島県立図書館提供**

# 「情報の部屋」

## おすすめの本

### 図書名 むねとんとん

さえぐさひろこ 作  
松成真理子 絵

(小峰書店)

小学校低学年におすすめです。

年をとって物忘れをしてしまうおばあちゃんぐま。孫ぐまの思い出を忘れないように、ひとつひとつ自分の胸をとんとんたたいて大事にしまっておこうとするおばあちゃんぐまの姿に孫ぐまは……。やさしさがたくさんたくさん詰まっています。ぜひ家族で読んでほしい一冊です。



### 図書名 気がつけばカラス

きむらゆういち 作  
織茂恭子 絵

(佼成出版社)

小学校中学年におすすめです。

人間の男の子が、ある日カラスになってしまいます。でも、カラスの世界って、結構楽しいのです。カラスはとっても頭がよくて、カラス同士でいろいろな遊びをします。カラスと人間、双方の目線からお互いを見つめ、立場が変われば感じ方も変わることに気付ける本です。



### 図書名 きらめいて！ハッピー・ジャズ

竹内もと代 作  
佐竹美保 絵

(国土社)

小学校高学年におすすめです。

音楽は素人の五年一組全員が、ジャズ好きの担任の先生と共に、音楽祭で拍手喝采を受けるまでになります。先生や子どもたちの粋なセリフやテンポのよい話の展開に、いつの間にか自分もこのクラスの一員になったような気分の中で夢中になって読んでしまう一冊です。



### 図書名 ピーター・流生き方のすすめ

ピーター・フランク 著

(岩波書店)

中学生におすすめです。

時間を有効に使いたいと思っけていても、ついつい誘惑に負けて後悔する。そんな経験はだれにでもありますよね。この本には、テレビや携帯、インターネットなどに流されない、「なるほど、やってみよう。」と思える具体的なアドバイスが満載です。本当に楽しく生きる秘訣「自分の人生の主人公を自分にする」ことを学べる一冊です。



### 【県立図書館】

### おはなしのじかん秋のスペシャル

- ①日 時 10月24日(日) 14:00~15:00
- ②場 所 県立図書館 大研修室
- ③内 容 大型絵本、大型紙芝居、指遊び、わらべうたペープサートなどの楽しいお話し会
- ④申込方法 無料で、当日どなたでも参加できます。



\* 担当・問い合わせ先  
県立図書館奉仕課企画指導係 Tel 099-224-9514

## 【県立南薩少年自然の家】

### 「あったかなんさつ」

障害のある子どもたちと、ボランティアの中学生・高校生・大学生が、野外活動（ハイキング、水ロケット作り）で南薩の自然に親しみ、交流活動（レクリエーション、お弁当タイム）で人とふれあう素晴らしさを感じる楽しいイベントです。是非、ご参加ください。

- 1 日時 11月6日(土)  
9:30-15:00
- 2 場所 県立南薩少年自然の家
- 3 対象者  
【参加者】特別支援学校・学級に通学する児童生徒及び保護者 20 家族  
【ボランティア】  
中学生・高校生・大学生 20 人
- 4 参加料  
【参加者】700 円(食費、クラフト代、傷害保険料等)  
【ボランティア】500 円(食費、傷害保険料等)
- 5 申込み方法：電話か FAX で申し込む
- 6 申込期限：平成 22 年 10 月 22 日(金)

#### ＜申込み先・連絡先＞

南薩少年自然の家

電 話：0993-77-2500 F A X：0993-77-1929

## 【かごしま県民大学中央センター】

### メディア研修講座

教育メディアに関する講座を実施することにより、技能向上の機会を提供するとともに、教育メディアに関する指導者及び指導補助者の育成を図る。

- 各講座の詳細
- (1) 講座名：ビデオ撮影・編集術③  
(【鹿児島市教委との連携講座】)
- ① 日時：11月6日(土)・7日(日)  
10:00～16:00
- ② 場所：  
かごしま県民交流センター 制作演習室
- ③ 申込期間：10月2日～10月16日
- (2) 講座名：デジタル写真講座  
～デジカメで広げるパソコン活用～①
- ① 日時：11月20日(土)・21日(日)  
10:00～16:00
- ② 場所：かごしま県民交流センター  
パソコン研修室 2
- ③ 申込期間：10月16日～10月30日

#### ＜申込み及び問合せ先＞

かごしま県民大学中央センター学習情報係  
(電話 099-221-6606)

<http://www.kagoshima-pac.jp/jp/center/info/shogai/index.html>

## 【かごしま県民大学中央センター】

### 「ふるさと名人伝承講座」

#### ～郷土料理に挑戦しよう～

講師に大塚耕二氏（城山観光株式会社取締役総調理長）を迎え、郷土の旬の素材を生かした郷土料理の由来や調理法を学び、郷土料理を伝承していく指導者・ボランティアを育成します。

- 1 日時：平成 23 年 1 月 15 日、29 日、2 月 5 日、  
19 日 いずれも 13:00～16:00
- 2 場所：かごしま県民交流センター 調理実習室
- 3 募集期間：平成 22 年 10 月 19 日～12 月 3 日  
(必着)
- 4 対象：郷土料理に興味があり、学んだことを何らかの形で他に伝えていく意欲のある県民（全 4 回に参加可能な方）
- 5 申し込み方法等詳細は電話で

#### ＜申込み及び問合せ先＞

かごしま県民大学中央センター学習推進係  
(電話 099-221-6604)

<http://www.kagoshima-pac.jp/jp/center/info/shogai/index.html>

## 【埋蔵文化財センター】

### 「発掘調査現地説明会」

発掘調査で分かった最新の成果を、現地でくわしく説明します。ぜひ、見学にお越しください。

#### ＜場所・日時＞

- 1 祇園之州砲台跡（鹿児島市） 11 月 6 日(土)  
1 回目 10:00～12:00  
2 回目 14:00～16:00  
・ 砲台跡の概要についての説明や、発見された遺構や遺物を公開します。
- 2 立小野堀・田原迫ノ上遺跡（鹿屋市） 12 月 4 日(土)  
1 回目 10:00 ～ 12:00  
2 回目 14:00 ～ 16:00  
・ 古墳時代に作られた地下式横穴墓や、弥生時代の集落跡を公開します。

#### ＜問合せ先＞

県立埋蔵文化財センター 0995-48-5811

<http://www.jomon-no-mori.jp>



## 【かごしま県民大学中央センター】

### 「かごしま県民大学連携講座」

高度化・多様化する県民の生涯学習ニーズに対応するために、当センターと大学等の高等教育機関、県及び市町村、民間教育機関、NPO法人、自主活動グループ等が連携して、生涯学習の機会を広く提供するために講座を実施します。

#### ◆ 各講座の詳細

##### (1) 講座名：【鹿屋体育大学との連携講座】

「薩摩文化論」

① 日時：10月5, 19, 26日(水) 19:00～20:30

② 場所：かごしま県民交流センター  
小研修室1

##### (2) 講座名：【鹿児島純心女子大学との連携講座】

「ことばと文化」

① 日時：10月16, 23日, 11月6, 27日(土)  
14:00～15:30

② 場所：かごしま県民交流センター  
小研修室2 他

##### (3) 講座名：【鹿児島国際大学との連携講座】

ワンク・グ・イバウト ピアノリサイタル&公開レッスン

① 日時：10月14日(木) 19:00～

② 場所：かごしま県民交流センター  
県民ホール

##### (4) 講座名：【県立埋蔵文化財センターとの連携講座】

火山と遺跡～自然とともに生きた南九州の人びと～

① 日時：10月22日(金) 19:00～20:30

② 場所：かごしま県民交流センター  
中研修室

##### (5) 講座名：【第一幼児教育短期大学との連携講座】

妖怪の世界をのぞく

① 日時：11月13日(土) 13:30～16:30

② 場所：かごしま県民交流センター  
小研修室1

### ふるさと再発見「かごしま学舎」講座 ～第4回「さつまのひびき さつまの魂」～

「郷土鹿児島を想う心」を大切にし、歴史、伝統文化、食、観光など様々な分野で活動している実践者たちに学び、新たな視点で鹿児島を見つめ直す講座の第4回です。

講師にNPO法人島津義弘公奉賛会理事長の島津義秀氏を迎え、野太刀自顕流、薩摩琵琶の伝統文化の継承等をおし、青少年健全育成の取組について、薩摩琵琶の実演も交えながら学びます。

1 日時 10月17日(日) 13:30～15:30

2 会場 かごしま県民交流センター 2階中ホール

3 申込方法 かごしま県民交流センター2階事務室へ直接または電話

#### <申込み及び問合せ先>

かごしま県民大学中央センター学習推進係(電話 099-221-6604)

<http://www.kagoshima-pac.jp/jp/center/info/shogai/index.html>

### ファミリー映画会 「ミラーを拭く男」

県視聴覚ライブラリーが保有する長編映画教材を上映することで、映像文化に親しむ機会を提供するとともに、ライブラリー教材の利用促進を図ります。同内容の映画会を午前と午後に行います。

1 日時 10月23日(土)

①11:00～ ②14:00～

2 会場 かごしま県民交流センター  
6階 映画シアター

### 「アニメシアター」

県視聴覚ライブラリーが保有する短編アニメ映像教材を上映することで、映像文化に親しむ機会を提供するとともに、ライブラリー教材の利用促進を図ります。

同内容の映画会を午前と午後に行います。

1 日時 「ファミリー映画会」開催日以外の期間  
＜月曜日は休館＞

①11:00～ ②14:00～

2 会場 かごしま県民交流センター  
6階 映画シアター

#### <申込み及び問合せ先>

かごしま県民大学中央センター学習情報係(電話 099-221-6606)

<http://www.kagoshima-pac.jp/jp/center/info/shogai/index.html>

## 【県立奄美少年自然の家】

### 「ハアサキ成人講座」 ～奄美ならではの染め物を楽しもう～

心の豊かさと学ぶ意欲にあふれる生涯学習社会の実現を目指して、ライフステージに応じた学習活動ができるようサポートする事業です。

ここでは、染め物を4回シリーズで提供します。

#### 1 日時

第1回 10月16日(土)、第2回 11月20日(土)  
第3回 12月5日(日)、第4回 1月15日(土)  
13:00～13:30 受付、13:30～16:00 講座

#### 2 場所 県立奄美少年自然の家

#### 3 申込方法・その他

10月12日までに、電話で直接申し込んでください。

なお、各回材料代が必要になります。

- ・ 第1・2・4回:各1,500円
- ・ 第3回:2,500円

### 「第5回オープンデー」

スポーツ・レクリエーション、クラフト活動などに親しんでいただくことを目的として、年間9回施設を開放する事業です。

今回は、スライム作り、プラホビー作り、チャレンジランキングになります。

#### 1 日時 平成22年10月23日(土)

【午前の部】10:00～12:00

【午後の部】13:00～15:00

#### 2 場所 県立奄美少年自然の家

※ 事前申込みの必要はありません。ただし、スライム、プラホビーは、材料代(一作品100円)が、当日必要になります。

### 「天体ドーム開放」

「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に、地域の方々に天体ドームを開放し、星空の観察を通して宇宙への興味を広げてもらうことを目的とした事業です。

#### 1 日時 10月30日(土)～11月5日(金)

18:00～21:00

※ 雨天時も、天体の話を実施します。

#### 2 場所 県立奄美少年自然の家

### 「アウトドア&スターウォッチング 秋」 ～アンドロメダ大銀河や秋の星座を観察しよう!～

四季の天体観察や野外炊さんなどの体験活動を通して、自然の素晴らしさや豊かさを感じてもらう場として、自然の家を地域の人々に開放します。

(年間4回実施)

#### 1 日時 11月30日(土)～31日(日) 1泊2日

#### 2 場所 県立奄美少年自然の家及び周辺

#### 3 主な活動

##### 【アウトドア編】

・ 野外炊さん、テント泊

##### 【スターウォッチング編】※30日のみ

・ ミニパラシュート作り、天体観察

#### 4 10月26日までに、電話で直接申し込んでください。

※ スターウォッチング編のみを希望される方は、申込みの必要はありません。

### 「ハアサキ成人講座」 ～陶芸を楽しもう～

心の豊かさと学ぶ意欲にあふれる生涯学習社会の実現を目指して、ライフステージに応じた学習活動ができるようサポートする事業です。

ここでは、陶芸を3回シリーズで提供します。

#### 1 日時 10月9日(土)

13:00～13:30 受付

13:30～16:00 講座

#### 2 場所 県立奄美少年自然の家

※ 10月6日までに、電話で申し込んでください。

なお、材料代として、各回2,300円が必要になります。

#### ＜申込み先・連絡先＞

社会教育課・県立奄美少年自然の家

TEL: 0997-53-1032

## 【県立奄美図書館】

### 「あまみならでは学会 6」

- 1 日時 10月16日(土) 14:00~15:30
- 2 場所 奄美図書館 4階 研修室
- 3 講師 作家 出水沢藍子氏
- 4 内容 「たのしい文章教室～素敵な文章の書き方～」

### 大島地区「ふれあい読書フェスタ」

- 1 日時 10月23日(土) 9:00~12:20
- 2 場所 和泊町中央公民館 2階 大会議室
- 3 講師 教育・文化施設研究所長 渡部幹雄氏
- 4 内容 読書会等による実演、講演等
- 5 講演 「図書館でまちづくり～地域をより豊かにするために～」

### 放送大学 奄美公開特別講義

- 1 日時 10月24日(日) 13:20~14:45
- 2 場所 奄美図書館 4階 研修室
- 3 講師 鹿児島大学教授 宮廻甫允氏
- 4 内容 未定

### 島尾敏雄記念室企画コーナー展

- 1 期間 10月26日(火)~11月16日(火)
- 2 場所 奄美図書館 1階 島尾敏雄記念室
- 3 内容 「島尾敏雄とクラシック音楽」と題して、島尾敏雄が所蔵していたレコードを展示

### 島尾敏雄記念室講演会

- 1 日時 平成22年11月3日(水) 14:00~15:30
- 2 場所 奄美図書館 4階 研修室
- 3 講師 澤 佳男氏
- 4 内容 「島尾敏雄と奄美」

### ネリヤカナヤ創作童話展示フェア

- 1 期間 10月26日(火)~11月16日(火)
- 2 場所 奄美図書館 1階 玄関エントランス、児童閲覧室
- 3 内容 第7回「ネリヤカナヤ創作童話コンクール」  
応募作品の展示

### 書庫見学会

- 1 期間 11月6日(土)~11月7日(日)
- 2 時間 1日2回実施  
(午前10時~、午後2時~)
- 3 内容 普段入ることのできない書庫内を見学

### 図書館ボランティア養成(応用)講座

- 1 日時 11月7日(日) 9:15~12:00
- 2 場所 奄美図書館 4階 研修室
- 3 内容 「読み聞かせ」についての講義、  
実習



<申込み及び問合せ先>

県立奄美図書館

TEL: 0997-52-0244 FAX: 0997-52-9634

E-mail: ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

## 【霧島自然ふれあいセンター】

### 「第2回霧島ファミリー散歩」

色鮮やかな紅葉に包まれた霧島の自然を満喫しながら、家族・グループの絆を深めませんか。

- 1 期日 11月6日(土)・7日(日)
- 2 場所 県立霧島自然ふれあいセンター  
えびの高原
- 3 対象 家族及び成人グループ

- 4 定員 30グループ100人程度
- 5 内容 えびの高原池めぐりトレッキング 他
- 6 申込方法  
申込書に必要事項を記入して、メール、  
FAX、郵送でお申し込みください。

<申込み及び問合せ先>

県立霧島自然ふれあいセンター

TEL: 0995-78-2815 FAX: 0995-78-2858

E-mail: k-fureai@pref.kagoshima.lg.jp



## 【上野原縄文の森】

### 第7回 縄文の森 秋まつり

ステージパフォーマンスや火おこし大会、アクセサリー作りなど楽しいメニューがあります。ご家族揃ってお越しください。

- 1 日時 10月23・24日(土・日)  
10:00～15:00
- 2 場所 上野原縄文の森  
体験広場
- 3 参加費 無料  
(ただし、一部体験メニューについては有料です。)

### 第28回企画展 「新発見！かごしまの遺跡2010」 ～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～

平成21年度中に県立埋蔵文化財センターが行った発掘調査や報告書が刊行された遺跡の中から、14遺跡を取り上げ、旧石器時代から近世まで、時代を追いながら「いちばん新しい かごしまの昔」を紹介します。

- 1 日時 ～11月28日(日)  
9:00～17:00(最終入館は16:30まで)
- 2 場所 上野原縄文の森 展示館 企画展示室
- 3 利用料金 小・中学生 150円、高・大学生 210円  
大人 300円(20名以上は団体割引有り)

#### ＜申込み先＞

鹿児島県上野原縄文の森

TEL:0995-48-570 FAX:0995-48-5704

E-mail: uenohara@jomon-no-mori.jp

### 縄文の森不思議探検 第3回「森のふしぎ」

9500年前の上野原のムラの人々の生活を支えた、森について学びます。

- 1 日時 11月3日(水)〔祝〕10:00～11:30
- 2 場所 上野原縄文の森  
展示館多目的ルーム及び園内
- 3 対象・定員 小・中学生30名
- 4 参加費 無料

### 1日縄文人体験 「縄文ケーキ&縄文リース作り」

クリスマスに向けて、自然素材を使った自分だけのリースを作ってみませんか。また、ドングリ粉入りのバームクーヘンを作ってみましょう。

- 1 日時 11月20日(土)10:00～15:00
- 2 場所 上野原縄文の森  
体験学習館
- 3 対象・定員 小学生以上30名  
(小学生は保護者同伴)
- 4 参加費 無料

## 【総務福利課 厚生係】

### 教職員相談

教職員よろず相談(面接、電話又は文書)

- (1) 受付時間 火曜日～土曜日の9:30～17:00  
※ 祝日、12/29～1/3を除く。
- (2) 場所 県立図書館 2階 教職員相談室
- (3) 電話 099-224-6248

### メンタルヘルス相談

- 県精神保健福祉センター(099-255-0617)  
相談方法・受付時間

#### ＜面接相談＞

月曜日(再来のみ)、木曜日(新規、要予約)(9:00～11:00)

#### ＜電話相談＞

月曜日～金曜日(9:00～17:00)

※ 祝日、12/29～1/3を除く。

### 教職員健康相談24

24時間年中無休、通話料無料で健康・医療・介護・育児・メンタルヘルス相談に応じています。

- 電話 0120-24-8349

## 【県立青少年研修センター】

### 青少年研修センター 「企業向け宿泊研修体験会」

商工団体・企業等の新入社員等の研修担当者を対象に研修効果を高めるプログラムのあり方を紹介し、センター利用についての理解を図ります。

- 1 日時 10月14・15日(木・金)  
1泊2日
- 2 会場 総合教育センター
- 3 対象 団体・企業等の研修担当者、人事担当者及び厚生担当者
- 4 募集人員 20人程度
- 5 経費 1,800円(食事代、資料代等)

### 「親子で自然体験」

自然体験に興味のある親子を対象に、日常生活では感じることでできない恵まれた豊かな自然に親しみ、親子の絆を深め、参加者相互のふれあいを深めます。

- 1 日時 10月31日(日)  
9:30～15:30
- 2 会場 総合教育センター
- 3 対象 家族・親子
- 4 募集人員 30組 100人程度
- 5 経費 250円(材料代等)

### 開所40周年記念 「秋だ！紅葉！青少研もみじまつり」

〔施設開放期間 10/24(日)～12/5(日)〕

#### 1 オープニングセレモニー、演奏会

- (1) 内 容 : オープニングセレモニー・オープニング演奏会等
- (2) 日 時 : 10月24日(日) 雨天実施  
オープニングセレモニー 9:30～10:00  
オープニング演奏会 10:00～10:30  
\*来場記念品(焼き栗)を先着200名に無料配布
- (3) 受付期間 : なし
- (4) 募集人員 : 県民一般 自由参加

#### 2 青少研自然学校Ⅰ

- (1) 「自然散策と秋の味覚探し」
- (2) 「どんぐりごまづくり」
  - ①内 容 : 自然散策と秋の味覚探し、どんぐりごまづくり等
  - ②日 時 : 10月24日(日) 雨天実施  
自然散策と秋の味覚探し 10:30～12:00  
どんぐりごまづくり //
  - ③受付期間 : ～10月17日(日)
  - ④募集人員 : 自然散策と秋の味覚探し: 県民一般50人  
どんぐりごまづくり: 県民一般 自由参加

#### <申込み及び問合せ先>

〒891-1305 鹿児島市宮之浦町4226-1  
県立青少年研修センター 研修課  
TEL 099-294-2111 FAX 099-294-2113  
E-mail: ytcken@pref.kagoshima.lg.jp